

発行／広島県印刷工業組合 発行人／中本 俊之
広島市西区南観音一丁目1番22号 TEL(082)293-0906 FAX(082)293-0954
URL : <http://www.hiroshima-pia.jp> E-mail : h.inkumi@estate.ocn.ne.jp



第2回 常設委員会合同開催

第19回 2025印刷産業夢メッセ
開催告知ポスターの公募

全印工連の令和7年度事業構想 福田副会長

ローカル・ゼブラの取り組み事例等の紹介
中国経済産業局 實國局長

第68回 広島県印刷優勝野球大会 組合せ

事務局だより

【広島新駅ビルの商業施設「minamoa(ミナモア)開業】

旧駅ビル アッセ (ASSE / 1965-2020年) を取り壊し、5年の時を経て地下1階～地上20階建てのミナモアが誕生し2025年3月24日にオープンしました。ミナモアとは、「ミナモ(水面)」河川と共に発展した水の都広島の水の水面のゆらめき・瀬戸内海の輝く水面のきらめき、「ミナ(皆)」みんなの・私たちの駅ビルという想い、「モア(もっと)」人が集まり・生活を豊かにしてくれ、広島のことを好きになるという想いが表現されたネーミングです。

旧駅ビル「アッセ」の店舗面積は10,961㎡でしたが、新駅ビル「ミナモア」は約25,000㎡！なんと倍以上の広さになり、路面電車は駅ビルへと吸い込まれるように2階へ乗り入れる新しい形へと変わります。皆さんも、買い物、食事等が充実した新たな広島の空間を堪能してみたいかがでしょうか。

第2回 常設委員会合同開催 各委員の仲間30名が集まり開催

令和6年度下期中国地区印刷協議会（2月21日岡山市開催）を受け、本年度第2回目の各委員会が3月5日（水）午後3時20分から、広島印刷会館会議室において開催された。

この委員会は、所属支部間を越えた組合員同志が、意見を交わし親睦を図り、交友を増やし信頼を増す場

であり、この厳しい経済情勢の中どのようにして乗り切るか、また、お互いの業態変革は如何にしているかなど、相互啓発を目的としたもので、まさに組合の原点です。

各委員会の内容等は、4月号にて掲載済み、内容は同じなのでそちらを参考としてください。

経営革新マーケティング委員会



林 丸林 小林 前田 宇都宮 隅川
國保 木戸 児玉

サステナビリティ・CSR委員会



小田 上重
島田 後藤

組織活性化委員会



田尾 花田 田村 須川
永田 瀬尾寿 大倉 薬師寺

教育研修委員会



宮崎 坂井 増田 藤原
玉野 堀内 高山 吉岡

第19回 2025 印刷産業夢メッセ 開催告知ポスターの公募

応募要項

1. 応募資格：広島県印刷工業組合員及び印刷関連団体並びに大学・専門学校に在籍の学生各位
2. 作品：A2サイズで原寸をプリントアウトしお送りください。なお、応募された作品は返却しません。入賞作品の著作権は組合に帰属するものとします。
3. 使用色：片面4色（デザインにより1色や2色、4色も可）
4. 記入必須項目（右の項目を参照）
5. 使用素材：自由
6. 応募作品：自作で未発表のオリジナル作品に限る
7. 応募方法：事務局宛に必要な事項を記入の上、郵送
記入事項は、
①応募者氏名 ②社名・学校名 ③連絡先
④作品テーマ（制作意図） ⑤使用OS
8. 応募締切り：2025年5月30日（金）“必着”
9. 賞：グランプリ 1点（商品券5万円）
準グランプリ 2点（商品券各2万円）
佳作 数点（商品券各3千円）

記入必須項目

- ①名称：第19回 2025 印刷産業夢メッセ
- ②会期：10月24日（金）、25日（土）
- ③テーマ：【印刷】×【新時代】 新たな夢へ
- ④作品テーマ（制作意図）
- ⑤会場：広島ガーデンパレス
〒732-0052 広島市東区光町一丁目 15-21
Tel.082-262-1122 Fax.082-262-5270
- ⑥主催：広島県印刷工業組合・中国印刷機材協議会
- ⑦主管：2025 印刷産業夢メッセ実行委員会
- ⑧協賛：広島県洋紙商連合会、広島県製本工業組合、中国グラフィックコミュニケーションズ工業組合、日本グラフィックサービス工業会広島県支部、中国地区印刷協議会
- ⑨『夢』のロゴ：右記参照
注：④の制作意図は、作成にあたっての思い、考え方を200字程度で記入のこと。



【中国地区印刷協議会より】

全日本印刷工業組合連合会の令和7年度事業構想

全日本印刷工業組合連合会 副会長 福田 浩志



まず、過去20年間の印刷産業の出荷額と印刷・情報紙の出荷数量の推移は、出荷額については、28年前1997年の8.9兆がピーク、20年後には64%まで減少している状況です。紙の出荷数量においては56%になっており、この要因としては印刷会社の多くが印刷以外の製品やサービスに転換を図っているからだと考えられます。

リーマンショック以降、市場は毎年平均3%ずつ縮小し、印刷情報紙の需要もコロナ前は31.6%も減少しており、2030年には25%の需要が消滅すると全印工連では予想しています。また2040年には高齢化と若年層の減少により約1,100万人の労働力不足になると言われています。

このような環境下で「私たちが進むべき道」を瀬田会長は、「価格競争から価値協創へ」というスローガンを掲げ、まず価格の適正化を行ってほしいということです。

そして同時に、各社に業態変革を促し差別化を実現し、各社が強みを補完し合い協力して顧客の価値を作り、異業種と共創することが我々のこれから進むべき道ではないかと考えているわけです。

このような現状を踏まえ、「全印工連が目指す戦略と使命」について話します。価値協創を実現するために、「勝てるルール」を作るということです。本日、経済産業省の局長にご来賓いただいておりますが、経産省や中企庁、あるいは議員連盟の先生方と連携して、不合理なルールの改正や機会の創出を進めていきたいと考えます。また組合員各社がゲームチェンジできる最新情報の提供やCSR、カーボンニュートラル、紙の価値向上などお客様の意識を変え、新たな需要を引き起こすための事業を情報発信し、組合員の皆さまが持続的成長を図れるように新たなエコシステムを構築することを目指していきます。

今まで右肩下がりの話ばかりしてきましたが、新た

な需要についてもお話しします。人口減少の社会を迎え、各地域では行政のみでは解決できないさまざまな問題が増えてきています。人もいないし金もありません。また、地域を支えてきた産業も、時代とともに大きく変化をしてきているということです。それと、観光事業のようなインバウンド需要も増加しています。

このような新たな需要を捕まえようと、スタートアップ企業も各地で生まれています。我々は元々地域に根差した産業です。地域に根差した印刷会社こそが実はこの課題に応じて、地域を発展させるエンジンになるべきではないかということです。

我々印刷業は、ほぼ全ての産業と接点があり、また、各地域に根差した事業を営んでいます。この強みを活かして印刷をコアに、さまざまな産業への支援や協創ができると考えています。つまり印刷業は、地域の困りごとが分かっている、その課題解決ができる存在であるということです。印刷は手段であって、目的は社会に彩り幸せを創るといふ、いわゆる全印工連のスローガンの「Happy Industry」ということだと思っています。私たちは時代のニーズをとらえて、単なる印刷製造業から生活や文化を創造する産業へと進むべきだと考えています。

実際に、既に全印工連の仲間がさまざまなチャレンジをしています。その1つの例ですが、秋田の製本印刷会社は地場産業の米づくりを支援するために、米粉のパン開発とか販売を支援しています。また、日本酒のブランディングや通販を行い地域産業と一緒にビジネスを展開しています。

また、山梨県の120年以上続く印刷会社では、廃田による地域衰退を防ぐために、米づくりを始めています。この印刷会社がある市では、作付面積が、この印刷会社の農業法人が第1位にまでに成長しています。そしてドローンを利用した農業にもチャレンジしており、コストを3割程度安くしているそうです。



Quality of Ideas

私たちは、お客様の課題解決の「お手伝い企業」です。

株式会社 原色美術印刷社

〒733-0833 広島市西区商工センター7丁目5-48
TEL: 082-277-3030(代) FAX: 082-278-3118

箔押し職人です。



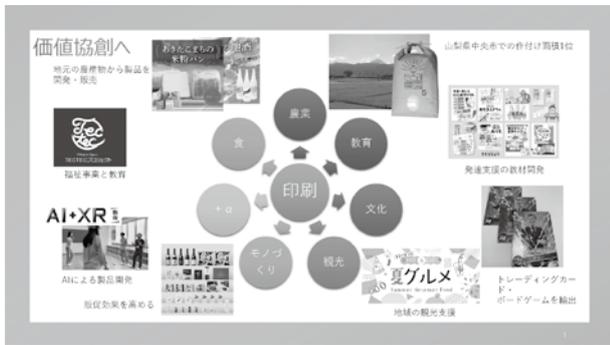
イチカワ印刷株式会社

GRAPHIC & PRINTING WORK SHOP

〒726-0003 広島県府中市元町422-2
TEL/0847-45-4358 FAX/0847-45-1389
E-mail: ichikawa@inc.email.ne.jp

そして、大阪の会社ですが、学習障害を持つ若者を社会で活躍できる人材にしようということで、教育支援のスクールを開校し、就職支援まで行っております。この会社に大手企業からも求人がきており、非常に好調だと聞いております。

また、東京の企画デザインを強みにしている会社ですが、Bambu 印刷を利用して、子どもたちの発達支援をする教材を開発して販売したり、もう輪転のチラシはなかなか難しいので、トレーディングカードの印刷にかじを切って、今は絶好調というような会社もあります。このように、地域の良いものを発見し、発信、販売促進、支援しているような会社もいっぱい出てきています。各社とも印刷で培った強みを活かして、異業種のパートナーと協創して新たな価値を生み出しています。



そこで、この価値協創型企業になるために、ローカル・ゼブラを目指しましょうということを提案させていただきます。いま世界的には、社会の課題解決と利益を両立させて、持続的な成長を目指すゼブラ企業というのが誕生してきています。ゼブラ（シマウマ）は見た目が白と黒です。白は社会貢献をあらわし、黒は自社の利益をあらわします。この白と黒が混じった、社会の問題解決と自社の利益、これを両立させた会社をゼブラ企業と言います。

印刷会社は地域で育てられ共に歩んできました。この地域の課題を解決することで、これからも持続的成長が得られるのではないかと思います。多くの印刷会社は、ローカル・ゼブラ企業を目指すべきだと、我々全印工連も考えておりますし、中小企業庁も2024年、昨年3月に中小企業の持続的成長戦略として、日本



の中小企業はこのローカル・ゼブラ企業を目指しましょうと言っております。

そのような方向を目指すためにも、ものづくりとことづくり双方が大事になってきます。今までのように、会社の経営資源をばらまくのではなく、自社の強みを、得意分野に集中して特化すべきだと考えます。例えば、生産が得意な会社には、生産を委ねるし、企画営業力のある会社にはことづくりのほうを委ねるなど、お互いに連携して共創することが、それぞれを伸ばすことにつながるのではないのでしょうか。

これを受けて、全印工連では今年何をすべきかということで、「①価格の適正化、不合理な取引の是正」により収益をまず改善すること。次に「②人材獲得支援」により、特定技能制度であったり、女性や障がいを持った方が働きやすい職場づくりといったような環境整備もやっていこうと考えています。また、「③紙の価値の探求と啓発」や「④持続的成長、ローカル・ゼブラへの変革支援」「⑤ AI DXの実装」という5つの柱を「2025 事業の柱」として活動しようと考えています。

まずは、価格の適正化、不合理な取引の改善についてです。経産省や中企庁が賃上げのための価格適正化を掲げています。我々にとっては、今こそが千載一遇のチャンスです。まずは官公需取引の是正が大事だと思っています。入札制度の改革ですとか、著作権に関するコンテンツバイ・ドール契約とかSR調達の実現といったことを全印工連としては目指していきます。そのためには、各種政治団体や議員とも連携を図っていきます。

最終的には、国民の取引きにも広げていきたいということです。

人材獲得支援については、特定技能制度への取組み

変わりゆく印刷産業に
新しい価値・サービスをともに創る
最も身近で信頼される そしてお客様の未来に
貢献できるパートナーとして
これからも歩んでまいります。

合同印刷機材株式会社
〒733-0833
広島県広島市西区扇工センター4丁目13-3
TEL 082-277-8822 FAX 082-277-8828
営業所：広島・岡山・宇治・福山・山口・徳島・松山・大阪

SAKATA INX...
広がっています、ボタニカルインキ

CO₂排出量削減に貢献!

環境に配慮したパッケージとしてアビール!

既に多くの包装に採用されています!

詳しくは当社ホームページのボタニカルインキ特設ページをご覧ください。
サカタインクス株式会社 情報メディア事業部
〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-23-37 TEL 06-5689-5858



の確立とダイバーシティの推進です。女性が活躍したり、障がい者の方も働きやすい職場づくりの推進であったり、そういった情報の発信をしていきます。

また、人材不足、労働力不足になりますので、省力化、自動化への対策であったり、省力化を推進する意味での情報提供も行います。これは、教育研修委員会やサステナビリティ・CSR委員会が行っていきます。

紙の価値の探求の啓発ですが、デジタルメディアと比較して紙の使用は環境に悪いという誤解が広がっています。フィンランドでは、デジタルの教科書を紙の教科書に戻すという動きになっています。また、オーストラリアでは、16歳未満の子どもたちのSNSの利用禁止といったように、いろんな動きが紙を巡って起きています。

我々が目指すのは、紙とデジタルが共存し両方のメディアが相乗効果で伸びるようにしていかないと考えています。

ローカル・ゼブラ企業への進化は、ローカル・ゼブラ企業へ皆さんが変革できるように、異業種や同業種での事例研究を発信するなど、産業戦略デザイン室と経営革新マーケティング委員会で行っていききたいと思います。

ローカル・ゼブラ企業として成功するためには、地域や協力先のパートナー、あるいは社員からの共感が大切になります。そのためにもCSR経営が求められます。CSR活動そのものが、他社との差別化にもつながります。全印工連は強力にこのCSR経営を推進していきたいと思っています。また、環境対策も重要です。単なるリスク回避ではなく、差別化のための戦略としてグリーントランスフォーメーション、GXなども進めていきます。まずはカーボンニュートラルから取り組んでいこうと考えています。これはサステナビリティ・CSR委員会が担当していきます。

最後になりますが、AIの実装、DXの推進は、このAI、DXが我々のゲームチェンジを引き起こす可能性があるわけです。AIの搭載を皆さんにどうして活用していただいたらいいのかといったことも、情報提供をしていきたいと考えていますし、eラーニングにAIのメニューを載せて、皆さんにAIの実装をしていただきたいと思います。AIの研究会を全印工連の中に作るかと考えています。

共創プラットフォームの推進は、今年度中に皆さんに、「J-CONNECT」という情報共有システムを提供します。これは各工組で利用していただいて、全国で展開できるB to B向けの印刷関連サイトができること

ということです。皆さんが自分の会社の強みとか自分の宣伝とかをページに載せていただいて、その裏で、受注・発注とかに役立つ情報関連サイトがオープンすることになります。実際、東京で「CONNECT」というかたちでもう運用しています。東京都の助成金を使ってシステムを開発しました。これを全国展開というかたちで皆さまにご案内をしているところです。この事業については、教育研修委員会、あるいは組織活性化委員会、経営革新マーケティング委員会が担当します。

最後に、価値協創の広報活動の展開ですが、皆さんに全国誌で『Xi [sài]』という雑誌を届けております。以前の『日本の印刷』からはだいぶ印象が変わって「見やすくなったけど、ちょっと中身が薄っぺらじゃないの?」というご意見もいただいています。今、産業戦略デザイン室の中に広報部会というのを作りまして、『Xi [sài]』の充実を図っていこうと取り組んでいます。それから『Xi [sài]』と連動して、ウェブサイトの活用もしていきます。先ほど話した紙の価値の情報発信です。これも製紙メーカー、卸商、商社、印刷会社みんなで協力して、この運動をやっていこうというふうに考えています。ヨーロッパでは「ツーサイト」といって、製紙会社、印刷会社、サプライチェーンで、みんなで「紙は実は環境に良いのだ」といったような運動を業界あげてやっています。こういったことも日本で展開できたらと考えています。

結論として、ポストコロナで業界の環境は大きく変わりました。時代の変化が早いので、我々も早く変化することが求められます。自社の強みに経営資源を集中させるための企業連携や企業連合が必要になってくるわけです。今までライバルとして地域で戦ってきた者同士ですから難しいのは分かっているのですが、組合という組織を本当に皆さん活用していただいて、同じ志を抱く仲間同士、胸襟を開いてつながりましょうということです。そのような協創が我々中小印刷業に求められているのだと思います。

印刷業の本質的な力は、結ぶ力、伝える力です。印刷とは単なる手段であって、目的ではないと思うのです。これを極めて地域のお客さま、そして社会を幸せにしていくことが、我々のあるべき姿なのだと思います。全印工連は皆さんとともに、2025年も「生活・文化クリエイティブ産業」に向けて未来を拓いていきたいと思っています。

ご清聴どうもありがとうございました。



【中国地区印刷協議会より】

ローカル・ゼブラの取り組み事例等の紹介

中国経済産業局長 實國 真一



本日はローカル・ゼブラの取り組み事例の紹介ということで講演させていただきます。

まず、ゼブラ企業とインパクト投資とは、日本でローカル・ゼブラ企業と言っておりますが、元々はアメリカで「ゼブラ企業」という名前です。時価総額を重視するユニコーン企業と対比されて、社会課題解決と経済成長の両立を目指す企業を、白黒模様、群れで行動するゼブラ（シマウマ）にたとえて命名され、日本では、地域の課題解決というところにフォーカスしているのが、アレンジしてローカル・ゼブラとされています。

大きな特徴として3つあります。まず、事業を通じて地域課題の解決を図り、収益性を確保・継続する。いわゆる地域課題の解決というところが、実はボランティアの活動であったりしますが、収益性を同時に確保するということが1つのポイントになります。2つ目は、その際に新しい価値の創造とか技術の活用により、今までに無いようなビジネスを作っていくというのが、2つ目の特徴です。そして3つ目が何のためにその事業をやるのかという目的が明確になっていること。つまり、この地域課題の解決を通じて、その地域、社会を、どういうところを目指すのかを、はっきりして進んでいくということです。

このローカル・ゼブラ事業を進める上でのポイントは、まず、資金調達をどうするのか、そして、人をどう確保するのかということです。当然、それらをするにあたっては、取り組もうとしている事業はどんな事業か、どんな成果を出すのかというのが分からなければいけないということで事業の可視化。そして、しっかりその目的に向かって進んでいくという意味での意思決定プロセス。その効果として、社会にどういう影響を与えるか、そのインパクトの可視化。こういうことが、ローカル・ゼブラ企業を進めていく上で必要なポイントとなります。特定のエリアに注目したローカ

ル・ゼブラというのあれば、普遍的、そのローカルに限らず、日本社会共通な課題まで広がっていくという、そういうローカル・ゼブラもあります。

ここからは、ローカルゼブラと呼ばれている人たちの事例紹介です。最初の方は、元々は金融関係のベンチャー系の企業さんだったんですけど、「日本の畜産が持続的ではない。それをどうやって持続的な畜産業にしていくか」という課題に対して、不動産の価値を分けて売るといった手法で、畜産の事業の価値を分割して出資者を募って回していくというビジネスで地域に合う畜産がしっかりできるのではないか。という考えで取り組まれています。

2人目は、元々仙台市で牛タンなどをECサイトというオンラインで販売する会社をやられていた方です。東日本大震災のあと、地元仙台的温泉街の人口減少とか、人が来ないという課題をなんとか変えていかなければいけない。というところから、まず人を呼び込むカフェを作ったらいけないかとか、あと、地元の商店街の人と一緒に、ツアーを作ったらいけないか。ということで事業を始められました。

3人目の方は、元々コンサルタントをされていた方です。コンサルタントをしているなかで、やっぱり、地域おこしなどのプレイヤーとなってくれる事業者を育てる必要があるということで、ローカルベンチャーを立ち上げる組織を作り、自分も立ち上がったというケースです。



artience

TOYO INK

感性に響く価値を創りだし、
心豊かな未来に挑む

東洋インキ株式会社 中国営業部
Tel:082-511-3411 Fax:082-511-1601
www.artiencegroup.com

Color & Comfort

変化する市場ニーズを
多彩な技術でナビゲートする

DIC グラフィックス株式会社
ディーアイシー
中国支店

〒738-0021 広島県廿日市市木材港北10-36

TEL:0829-31-2111

<https://www.dic-graphics.co.jp/>



4人目は、元々最後に働いていたのがベンチャー企業で働いていたのですがリーマン・ショック後に退職され、職業訓練校で、子育てを理由に会社を辞められていた女性たちと知り合って、じゃあ、子育てについてみんなでシェアをする何か取り組みができないかということきっかけに、子育ての共有化をする「共助」という概念で支援する、こういう取り組みを始められた方です。

次の方は、東日本大震災を契機に、福島で役に立ちたいと思い福島に移住し、農作業を手伝っているなかで、農家の方が規格外の果物を市場に出せない理由で捨てられる果物があるという課題に対して、規格外にも付加価値を付けて収入にできないかといったところから取り組みをして、農家の収入を上げる。それがさらには、別の果物の廃棄物を活用していく。こういう取り組みをされています。

6人目は、元々作業療法士の方で、いろいろな病院等で勤務され、当然、患者さんとかのお声を聞いたりするなかで、結構、職業病の人が多いいということに気づき、従業員というのは働くうえで極めて重要な資本なので、それをしっかり支えていく必要があるのではないかと思われ、職業病をなんとか解決するチームを、作業療法士だけでなく、理学療法士とか、介護士とかいろいろな方々と組んで支援する組織を作り、それを今全国展開しております。

他にも当局に寄せられている多くの課題があります。いずれも、自治体から来ています。

1つ目は、発達障害に関する相談が増えているということで、相談体制を新しいスキームとかをはじめとした、支援体制の強化ができないかというご相談です。

2つ目は、障がい者支援です。なかなか健常者と意思疎通が同じレベルでできている状況とは言い難いので、なんとか障がい者との円滑な意思疎通ができかという内容です。

3つ目は、皆さんもお聞きになったりしていると思いますが、地方に行くと公共交通網が縮小しています。高齢者の移動手段の確保が難しいというなかで、どのように高齢者の移動手段が確保できるかという課題です。

そして、4つ目は、見守り対象となる高齢者を予め

どこにいるかが分かると、しっかり支援することができるのではないか、その抽出する方法がないかという内容です。

課題の5つ目は、やっぱり人口減少のなかに、交流人口とか関係人口を増やしていきたい。1つの切り口として、「教育」をテーマとした観光コンテンツというものができないだろうか。

6つ目は、商店がだんだん減っている。生活必需品の調達手段がなくなりつつあるなかで、なんかうまく方法はないか。こういった課題があります。

今日申し上げた話が全て言い尽くしているわけではありませんし、実は地域の課題というのは、人それぞれ受け止め方によっては「あっ、これは課題じゃないな」というものもあるでしょうし、「えっ、それ課題なの？」というものもあるかもしれません。実はこういう課題は、一番近くに転がっていることが多いです。

そして、実はこれは自社だけで取り組む、取り込まなきゃいけないというものでは、必ずしもありません。いろんな強みを持っている人たちがいます、行政や、住民もそうです、大学とか地方公共団体もそうです。そういったところと組みながら、最終的に持続可能な取組みにしていくというのは、やはり収益モデルがうまくできると持続可能になるというところですよ。ぜひ、課題を見つけたら、次はどこと一緒にやってみようか、なんていうことも考えると面白いのかもしれない。

今日は少し時間がなかで、イントロ的なお話をしましたが、ローカル・ゼブラをもっと知りたい、あるいはうちの会社でもちょっと話をしてくれというようなご要望がありましたら、お気軽に我々経産局のほうまでご連絡ください。まずは、ローカル・ゼブラの話については以上です。

※その後、「中小企業新事業進出補助金(令和7年1月号・VOL 461で周知済み)」や、新しい事業分野に挑戦したい事業者、あるいは新しい市場にチャレンジしたい方々に向けた「新事業進出補助金」の説明があった。

それから、「大阪・関西万博」のPRをされ、是非、大阪・関西万博に参加され、新しい世界を味わっていただきたい、感じていただきたいと熱く語られた。



第68回 広島県印刷優勝野球大会 組合せ

開催日：5月11日・18日（各日曜日）予備25日（日）※雨天順延
 場所：1日目：八木地区大田川河川敷グラウンド 8時30分より開会式
 // 2日目：草津公園野球場

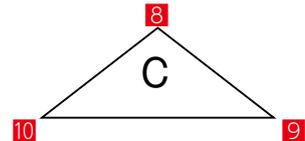
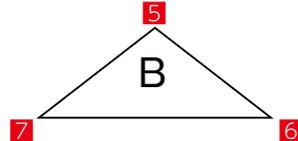
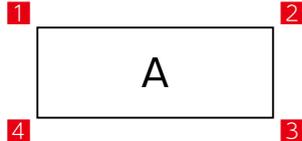
- *第1日目 予選リーグ リンク戦 第2日目 決勝 トーナメント戦
- *予選リーグは次の順により順位を決定する
 - ①勝数 ②得失点差 ③総得点の多いチーム ④抽選
- *決勝トーナメントは各グループ上位1チームおよび各グループ2位チーム内より上位1チームで行う
- *2位グループの順位は次の順により決定する
 - ① 得失点差 ② 総得点の多いチーム ③ 抽選



昨年優勝チーム イケダ (株)

第1日目・予選リーグ

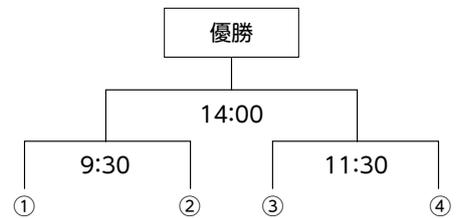
ベンチ
若番1塁側



	A 対戦	B 対戦	C 対戦
・第1試合 9:00~10:20	1-2	5-6	8-9
・第2試合 10:30~11:50	3-4	6-7	9-10
・第3試合 12:30~13:50	1-4	5-7	8-10
・第4試合 14:00~15:20	2-3		

- | | | |
|--------------|---------------------|------------|
| 1 中国新聞印刷(株) | 5 株金陽社 | 8 イケダ(株) |
| 2 株ユニバーサルポスト | 6 富士フィルムビジネスソリューション | 9 株中本本店 |
| 3 広島洋紙(株) | ジャパン(株) | 10 株アドブックス |
| 4 瀬戸内海印刷(株) | 7 組合連合 | |

決勝トーナメント戦



事務局だより

◎ 事務局の異動



4月1日より事務局でお世話になります、三次邦仁(ミツギ クニヒト)と申します。新たな分野の業種に従事させていただくので、とても新鮮な気持ちで毎日を過ごしております。不慣れな点が多々あり、ご迷惑をおかけしますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

◎ 組合のうごき

4月	日	内容	会場
	9日	産業戦略デザイン室	東京
	11日	組合会計監査	印刷会館
	12日	全青協正副議長会	福岡
	18日	JPPS講習会	web会議
	23日	夢メッセ三役会、第1回常任理事会 第1回拡大理事会、会館取締役会	印刷会館
	24日	常任役員会・理事・情報	東京
	26日	東西対抗ゴルフ大会	久井カントリー

5月	日	内容	会場
	11日	野球大会1日目	八木G
	12日	青年部会総会	印刷会館
	18日	野球大会2日目	草津公園野球場
	20日	経営革新マーケティング委員会	web会議
	21日	広島県印刷工業組合通常総会 広島印刷会館株主総会	印刷会館
	22日	教育研修委員会	東京
	26日	常任役員会・通常総会	東京會館
	28日	組織活性化委員会	web会議

頼れる紙の会社

広島洋紙株式会社

Q 広島洋紙 ☎ 082-277-3131

紙

販売

紙袋

製造販売